1980年発刊のチボリニュース他、現地と日本の市民を繋いだ HANDS,JOFPA, FOT の各ニュースレター・タイトル。「チボリニュース」の文字はSCM創立者 Fr. Rex 筆

ビラーン通信 113号

2023年4月25日発行

NPO法人ビラーンの医療と自立を支える会
（英文名略称・ＨＡＮＤＳ）
本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11
TEL & FAX:045-500-9151
E-mail:hands-mindanao@nifty.com
http://hands-mindanao.a.la9.jp/
郵便振替口座　00210-5-72693
加入者名：ビラーンの医療と自立を支える会

「若い世代につなげたい」先駆者藤原氏の思いは引き継げたか　ー活動収束に向けて振り返る　ー

1996年7月の設立から数えて今年27年目となる当団体(略称HANDS)。111,112号と続けて触れた活動の収束に関して、この6月開催の社員総会では「法人としての活動は2023年度末で終了」を議案に含むことが決まりました。

この活動収束の最大の理由は世代交代問題ですが、私たちHANDSが、2002年に少数民族里親の会/FOTを、2013年にはチボリ国際里親の会/JOFPAの活動を引き継いだことで、故藤原氏が始めた「ミンダナオ島先住民族」支援は通算で43年と長きにわたること、その長期支援の実りを確認できるようになったことも収束提案につながりました。

緊急のニーズだった医療は、CMIPと協働した簡易水道建設や巡回診療等が、医療サービスへのアクセス困難な山岳部の、特に子どもたちの命を守り、また、2002年からPIHSと協働の「母と子の命を守る」活動も、助産所運営がほぼ軌道にのるまでになりました。

先住民族支援で重要な文化継承、伝統を生かした女性たちの収入向上支援も、2000年に支援開始のチボリの女性組合COWHEDについては数年前にほぼ自立しました。

山深い地域での私設学校建設に始まり、教科書や給食などの初等教育普及、また、教師から医師に至るまで、各種専門家を育てた人材育成事業、さらに、先住民族に唯一残された土地、山腹斜面での収入向上と環境保全のためのアグロフォレストリーの実施、苗木を育てる支援も、時を経て確かな実りを確認できるようになりました。

一方で、学業半ばのカレッジ生等について、支援継続の申し出があれば、任意団体の形であってもそのニーズにつなげていく必要があるのでは？等々、各種思いが交錯する中、改めて活動の原点をと、事務局書棚の「藤原輝男の実践哲学」を手にしました。山口大学教授であるともに、国際NGOに参加していた藤原氏。1979年、マニラでシスター・エバからチボリの窮状を聞き、その暮れにミンダナオを訪問。年明けに全国紙で報道されると、電話が鳴りやまなかった等「チボリ支援事始め」に触れています。現会員の中にも、1980年初、藤原氏宅のベルを鳴らした方がいらっしゃるのではと、その長きにわたる活動に感慨を新たにするとともに、HANDSが次世代継承ではなく収束を選択した今、あとがきの「若い世代に」の言葉を改めて重く受け止めました。

「世代をつなぐ」については、今も子どもさんの名前のまま支援継続のケースがあったり、JOFPAが実施の年2回の現地訪問では、親子での参加が見られたように、会員それぞれに、「次世代に伝える」を大切にされていたことがわかります。私もまた、2, 3例と限られたケースですが、学生さんをビラーンの村の事業モニターに伴ったことがあります。

また、コロナで中断していますが、年数回出展のイベントも、若い世代に現地を伝える貴重な機会となっていました。

「世代をつなぐ」に関して改めてお伝えしたい事例があります。1999年以降続く山口県立華陵高校の生徒さんの「チボリ募金」です。上級生から下級生に今も繋がれています。

「当NPO法人の運営を若い世代につなぐ」はかないませんでしたが、青少年期に、何らかの形で私たちの活動と接点のあった皆さんが、ミンダナオ島先住民族に限らず、SNS等で日々触れる国際情勢について、他人事としないで深く関心をもっていただけるならば、藤原氏が残された「若い世代に」に多少とも応えられたのではと思っています。（山崎）